

DRUG FOR ALLERGIC RHINITIS

特許公報番号 JP3027318 (A)

公報発行日 1991-02-05

発明者 ITO HIROTAKA

出願人 ITO HIROTAKA

分類:

一国際: A61K36/48; A61K36/00; A61P27/16; A61P37/08; A61K36/185;
A61K36/00; A61P27/00; A61P37/00; (IPC1-7): A61K35/78

一欧州:

出願番号 JP19890160917 19890626

優先権主張番号: JP19890160917 19890626

他の公開

JP7119175 (B)

JP2887879 (C)

要約 JP 3027318 (A)

PURPOSE: To obtain a drug for allergic rhinitis containing an extract of Sophorae Radix.

CONSTITUTION: A nasal drop obtained by drying a root of Sophora angustifolia belonging to the family Leguminosae, decocting the resultant Sophorae Radix, freeze-drying the decoction and preparing the freeze-dried substance in the form of a 0.5-5% solution. This obtained nasal drop is dripped to a patient suffering from allergic rhinitis. The drug has effects on inhibition of nasal congestion, pharynx and pituita. The drug is administered 2-3 times a day for 1-4 weeks to relieve and improve the allergic rhinitis.

esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

⑫ 公開特許公報(A) 平3-27318

⑬ Int. Cl.⁸

A 61 K 35/78

識別記号

ABF J
ABM

庁内整理番号

8413-4C
8413-4C

⑭ 公開 平成3年(1991)2月5日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 アレルギー性鼻炎薬

⑯ 特 願 平1-160917

⑰ 出 願 平1(1989)6月26日

⑱ 発 明 者 伊 藤 博 隆 愛知県名古屋市天白区塩釜口2丁目905

⑲ 出 願 人 伊 藤 博 隆 愛知県名古屋市天白区塩釜口2丁目905

⑳ 代 理 人 弁理士 宇高 克己

明 細 書

1. 発明の名称

アレルギー性鼻炎薬

2. 特許請求の範囲

苦参の抽出物を含むことを特徴とするアレルギー性鼻炎薬。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、アレルギー性鼻炎の治療薬に関するものである。

【発明の背景】

長野県や中国河北省などで栽培されているマメ科(Leguminosae)のクララ(*Sophora angustifolia*)の根を乾燥した苦参には、d-マトリン、d-オキシマトリン、d-ソフォラノール、e-アナギリン、e-メチルシチシン、e-パパチホリン、e-ソフォガルピン等のアルカロイドや、キサントフモール、イソキサントフモール、3,4',5'-トリヒドロキシ-7-メトキシ-8-イソベンテニルフラボン、8-イソベンテニルケンベロール等のフラボノイド類が含ま

れている。尚、茎と葉にはルテオリン-7-グルコシドが含まれる。

そして、この苦参には次のような薬理作用があると言われている。

1. 利尿作用

苦参の煎剤及び苦参に含まれるマトリンをウサギに投与もしくは注射すれば、利尿作用が現れる。

2. 抗不整脈作用

緑フラボンβクロロホルムの引き起こすマウス心室細動に対抗し、クロロホルム-アドレナリンによるウサギの不整脈に対抗する。またアコニチンによるラットの不整脈に対する治療作用もある。群衆注射するとラットの心拍数を減らし、大量に用いると心電図のP-R期を延長する。オキシマトリンもアドレナリンによる不整脈に有効である。アルコール抽出物もジギタリス中毒からくるラットの不整脈に対し良好な対抗作用がある。

3. 抗痙攣作用

アルコール抽出エキスを *in vitro* で抗トリコトナス作用をもち、その強度は黄連より強く、絶

床子にはほぼ等しい。

4. その他の作用

マトリンをウサギに注射すると、中枢神経の麻痺がみられ、同時に血壊を起こす。

そして、次のような治療に用いられると言われている。

1. 細菌性肺炎の治療

① 内服法 50%の濃い煎剤を1回20～30mlずつ、1日3回服用する。あるいは苦参100gに水400mlを加え200mlになるまで煎じ、1日2回に分けて服用し、7～10を1クールとする。

② 注射法 50%の注射液2～4mlを朝晩1回ずつ筋肉注射する。

③ 灌腸法

④ へそに貼る方法

2. 急性腸胃炎の治療

煎じて1日2回服用する。又はシロップ剤を1回10～15mlずつ、1日2回服用する。

3. 急性伝染性肝炎の治療

一般的な肝機能保全の治療のほか、苦参の粉

末4gをカプセルに詰めるか、あるいは丸剤にして1日4回に分けて服用する。

4. 小児肺炎の治療

200%の苦参注射液2mlを1日2回筋肉注射する。

5. 急性副肺炎などの治療

50%の苦参注射液を1回2～3mlずつ、1日2回筋肉注射して、急性副肺炎、急性結膜炎、急性乳腺炎、歯周炎、外科的感染と腎盂腎炎、急性気管炎、急性リンパ肺炎などの急性炎症性疾患を治療した例では、有効率90%以上、治癒率74%以上であった。その他にも、大腸炎、胆嚢炎、膀胱炎等の炎症に対してもかなりの効果がある。

6. 慢性気管炎の治療

苦参7、桔梗3の割合で配合し、細かい粉末にし、水を加えて丸剤にする。1日2回服用し、10日を1クールとする。次のクールへ移るときには5日あいだをおく。

7. ランブル鞭毛虫症の治療

8. 腸トリコモナスの治療

苦参の粉末のカプセルもしくは錠剤を服用する。

9. トリコモナス肺炎の治療

10. 住血吸虫症による腹水の治療

ところで、上記のように各種の治療に苦参が用いられているものの、これまで苦参がアレルギー性鼻炎の治療に用いられたとの報告はない。

【発明の開示】

本発明者は、苦参を煎じたものを凍結乾燥し、このものを例えば0.5～5%の溶液にした点鼻剤をアレルギー性鼻炎の患者の鼻腔に滴下した所、鼻閉、くしゃみ、鼻汁の抑制に効果があることを見出すに至った。

すなわち、アレルギー性鼻炎に対して1～4週間の投与により、軽快、改善が認められたのである。鼻閉については即効を呈することもあった。

本発明は上記の知見を基にして達成されたものであり、苦参の抽出物を含むことを特徴とするアレルギー性鼻炎薬を提供するものである。

尚、このアレルギー性鼻炎薬は、点鼻剤タイプあるいは軟膏剤タイプのような如何なるタイプの

ものとしても良い。

【実施例】

苦参を煎じたものを凍結乾燥し、このものの1%の点鼻剤を作成した。

そして、このようにして得られた点鼻剤を1日に2～3回アレルギー性鼻炎の患者の鼻腔に一滴滴下し、その治療成績は次の表に示す通りであった。

年齢	性	診断名	主抗原	その他の抗原	鼻汁中 好酸球	皮内反応	抗原特異 IgE 抗体	鼻症状の変化			他覚所見の変化			全般的効果 2週, 4週	全般的 有用度	その他 副作用
								前	2週	4週	前	2週	4週			
17	♂	アレルギー 性鼻炎	スギ、 カモダ グヤ	ハウス ダスト	++	スギ ++ カモ ダグヤ +	スギ RAST 4 カモ RAST 2 ダグヤ	(Lob) ++ 鼻汁 ++ 鼻閉 ++	+	-	下甲介 腫脹 ++ 色調 白 ++ 分泌物 白 ++	+	+	有効	有効	なし
38	♀	アレルギー 性鼻炎	スギ	ハウス ダスト	++	H.D. + スギ ++	スギ RAST 3 H.D. RAST 2	(Lob) ++ 鼻汁 ++ 鼻閉 ++	+	+	下甲介 腫脹 ++ 色調 白 ++ 分泌物 白 ++	+	+	やや 有効	有効	なし
39	♀	アレルギー 性鼻炎	ハウス ダスト (H.D.)		++	H.D. ++	H.D. RAST 2	(Lob) ++ 鼻汁 ++ 鼻閉 ++	-	-	下甲介 腫脹 ++ 色調 白 ++ 分泌物 白 ++	+	+	著効	著効	極めて 有用
35	♀	アレルギー 性鼻炎	ハウス ダスト (H.D.)		+	H.D. ++	H.D. RAST 3	(Lob) + 鼻汁 ++ 鼻閉 ++	-	-	下甲介 腫脹 ++ 色調 白 ++ 分泌物 白 ++	+	+	著効	著効	極めて 有用
32	♂	アレルギー 性鼻炎	スギ カモダ グヤ		+	スギ ++	スギ RAST 2	(Lob) ++ 鼻汁 ++ 鼻閉 ++	+	+	下甲介 腫脹 ++ 色調 白 ++ 分泌物 白 ++	+	+	著効	著効	極めて 有用